

# MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団



あの日あの時

路地裏散策

清水巴川・港周辺

清水区本町

特集  
清水港とお茶

## Information

(財)静岡市文化振興財団インフォメーション

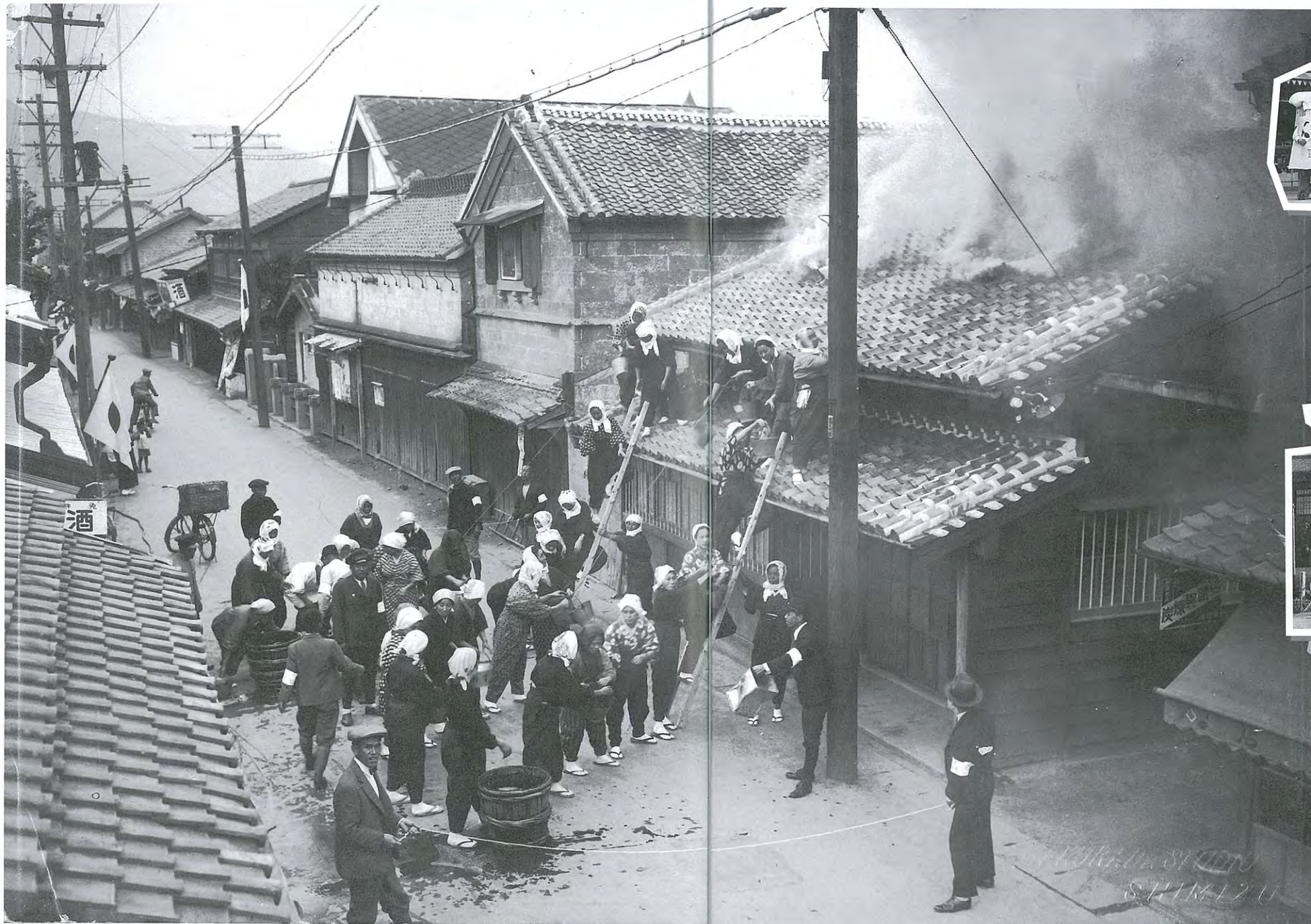
静岡科学館・くる  
ワールドプロセッサー展

子どもに伝えたい地球108の顔  
インゴ・キョウター

# あの日あの時

## 清水区本町

SHIMIZUKUHONMACHI



▲当時生ビールは珍しかった



▼電車通り(現清水区役所前)



▲富士見橋より富士を望む

清水区本町は「志みず道」(東海道より「追分」で分岐し「清水湊」に向かう主要道)がとおり、古くは巴川の河畔港として、徳川幕府の時代より特権を与えられた廻船問屋や商家の石蔵がならぶ清水の中心であった。

お話を伺った石野さんのお宅は徳川幕府の時代に大坂夏の陣の勝利に貢献したとして、特許を与えられた42軒の廻船問屋の1つ、三保屋(後に石野源七商店)であった。その蔵には商品台帳や歴史資料など貴重な古文書が数多く残され、現在貴重な資料として、調査、整理が行われている。

「戦争で焼けてしまったからあんまり残っているものはないんだけど」といって、古い写真を探すと、アルバムに整理された写真がでてきた。「親父が几帳面に残してくれた」。戦時中の写真も多く含まれる。「子どもの頃そんなに楽しい思い出はないな」。中学1年生で終戦を迎えた石野友也さんはそう語る。

「当時、周りは田んぼばかりだったよ」。巴川にもよく遊びにいったという。

昭和14年当時、石野さんのお父さんが町内会長を務めており、銅鉄の回収や防火演習など、何かあると石野さんのお宅付近で行ったという。

昭和20年7月の清水への空襲で市街地の大半が焼けてしまった。石野さん宅も母屋と当時8つあった蔵の内5つが焼けてしまっ

たという。石蔵の壁は火災には強いのだが、屋根を突き破って焼夷弾が炸裂し、中の梁が全て燃えてしまい、石の壁だけ残ったという。現在でも庭を掘ると瓦礫が多く出てくる。

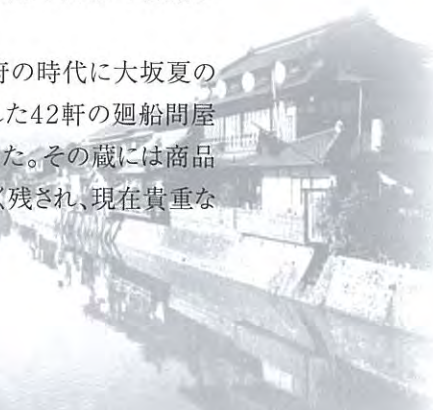
商売をやっていたためこの地を離れることが出来ず、蔵でしばらく生活していたとのこと。



▲江尻志茂町通り(現清水区銀座)



▲昭和17年 銅鉄回収 石野源七商店前



▲江尻巴川



路地裏散策  
清水巴川  
Shimizu Tomoe River・Minato  
港周辺

駅から歩いて清水の街を散策してみませんか……。

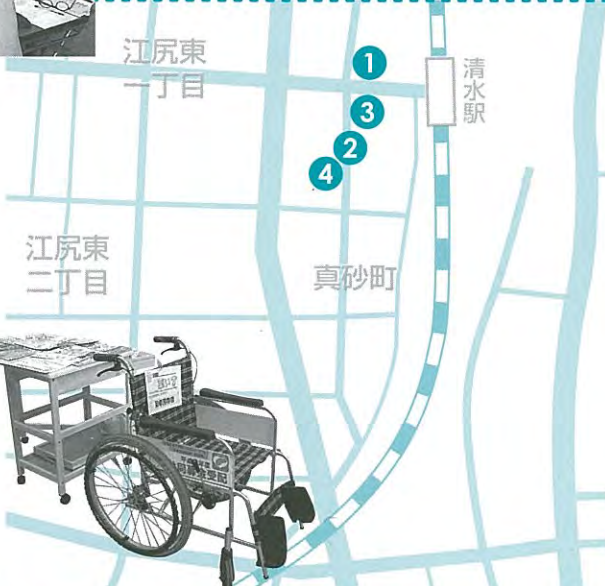
### 1・清水NPO・ボランティア市民センター

清水駅前市民活動の拠点として、平成15年度に静岡市が開設した。階段で3階に上がるとテーブルが置かれたオープンスペースが広がる。受付窓口で最初に使う時に利用申請すればよい。中は誰でも利用できるオープンスペースとサロン、会議室に分かれており、部屋には緑や花が置かれており、明るい雰囲気だ。掲示板には登録団体やセンターが実施するイベントなど様々な情報が発信されている。今、市民活動をやっている人も、これから地域のために何か活動をしたと思っている人も是非一度足を運んでみては。また平成18年11月には港町の再開発ビルへ移転予定とのこと。



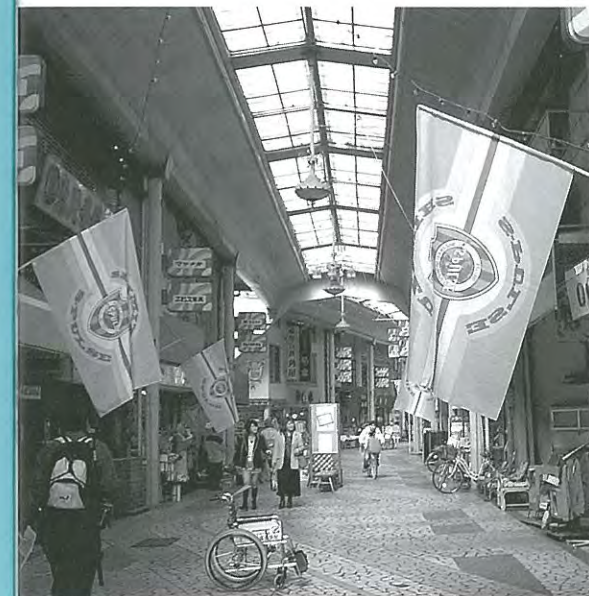
### オープンスペース清水ネット

平成11年9月設立。「市民活動の拠点が必要」と活動していたところ、市の古い施設を利用できることになり、利用団体のネットワークを作ったのが会の始まり。様々な約40からなる団体で構成し、その中で運営に参加しているコアメンバーは15人くらいという。現在は静岡市より清水NPO・ボランティア市民センターの委託を受け運営し、市民活動のための相談や、情報誌の発行、様々な講座やイベントを行っている。



### 2・清水駅前銀座商店街

JR清水駅から435m続くアーケードに約120店舗の商店が並ぶ。多彩なイベントがこの商店街の魅力。「お地藏さん縁日」や恒例の「七夕まつり」、「鉄火巻日本一に挑戦!」、「マグロどんぶりコンクール」などの市民参加イベント



開催、ショッピングカートや自転車、車椅子の貸し出し、休憩用ベンチの常設などを行っている。商店街には個性豊かなお店と個性豊かな人たちがいる。買い物だけでなく様々な交流をすることができる。「人との豊かなかわりの中で楽しく時が過ぎる街」をコンセプトに新たな街づくりを目指す清水駅前銀座商店街に注目だ。

### 4・リビングハウス こまつ

「時を越えた確かなものを」と古材家具やエスニック雑貨の取扱い、家具のリフォームなどを行う。竹箆に和紙を貼り、その上から柿渋を塗った「一閑張り」教室など様々な教室も開いている。



清水駅前銀座商店街振興組合の副理事長も務める野口直秀さんは、「まちは必要なのにどんどん衰退している。ただ単に経済的判断から必要・不必要を決めるのではなく、生活の拠点としての機能をきちんと理解しなければ」「市民にとって必要な街とはなにか」と常に考えている。地域通貨の取り組みや、地域振興策など様々な取り組みをリードする。

### 3・中澤園

もともとは横砂で果物の輸出業を行っていたが、昭和23年よりお茶の小売業を始めた。店頭には店主の中澤利雄さんの目にかかった清水の各地のお茶や、抹茶道具などが並ぶ。おすすめは清水を代表する産地からお茶を厳選し、産地別にパックした「清水茶産地四撰セット」。1パック20g(約2煎分)から販売しており、味や香りなど、産地による特徴の違いを少しずつ楽しむことができる。この商品を企画したのが、清水お茶の街づくり実行委員会「清水みんなのお茶を創る会」で、同会の会長の中澤さんが務める。「お茶についての相談はわかることなら全て、わからないことでも調べてお伝えします」と心強い。



## 5・茶一筋 清水園

「私にできるのは一服のお茶と時間を提供すること」と店内には作品が並ぶギャラリーとお茶をいただけるスペース



が作られている。家業のお茶屋の経営とともに、創作茶筒作家としても活躍される金子高見さん。最初はイメージした茶筒を自分で繰り返し「写経」のように制作しているうちに、自由に作品が創れるようになったという。ここ数年は茶筒の枠を飛び越えて、新たな造形活動にも取り組む。「毎年作っていた千支の茶筒からうさぎが飛び出した」と1000羽以上のうさぎの作品が生まれた。作品に見とれていると、「本物の方が美しいよ、生きていることが素晴らしいと感じて欲しい」と教えてくれた。

## 6・栗田屋本店

昭和20年に現在の地に栗田峰次郎が創業。「百貨店や量販店にはないものを」と、100年の歴史をもつ職人集団による「深川製磁」や、金属茶こしを使わない三日月急須などこだわりの食器が並ぶ。「単に食器を販売するのではなく、文化や情報をいかに編集して生活者に届けることができるか」とテーブルコーディネートやオリジナルウェディングの演出も手がける。代表取締役の栗田丈資さんはジャズピアニストとしても有名。プロのミュージシャンとして東京でのライブ活動もこなす。「運がよければお店での演奏が聞けるかも」とのこと。「食環境プロデューサー」の栗田富美子さんともにお店の「付加価値」を高めている。



深川製磁の湯のみ。富士が美しい。



## 7・地域活性化戦略研究所

元国際A級レーシングドライバー、通産省民活アドバイザー、商工連地域プランナー…。いくつもの肩書きが出てくるのは、清水駅前銀座の帽子屋「マルハナ」の奥に事務所をかまえる所長の花井孝さん。「たかがイベント、されどイベント」清水だけでなく全国の数々のイベントプロデュースを手がけてきた。「自分の企画が形になるとワクワクする」。清水みなと祭りなど様々なイベントにかかわるうちに、地域プランナーを職業とするようになったという。「まちづくりはお金があれば誰でもできる。でもお金がなければ知恵を出そうじゃないか、知恵もなければ汗を流そうじゃないか」と花井さんはいふ。市民みんなで楽しく汗を流せば、地域に賑わいが生まれる。



## 8・魚町稲荷神社 日本少年サッカー発祥の碑

新年に清水エスパルスが必勝祈願を行うことで有名な魚町稲荷神社。城将穴山信君(梅雪)により大改修された江尻城とともに、この地に社殿が造営された。

神社に隣接する江尻小学校は、日本少年サッカー発祥の地として有名。平成11年11月11日境内に「少年サッカー発祥の碑」が建立された。「サッカーのまち清水」の基礎

を築いた地として、サッカーファンならずとも是非訪れてみたいところ。遠い戦国の世を偲び、森に囲まれた静かな一時を過ごすのもよい。



## 9・戸田書店

大正13年、書物が好き、読書が何よりの楽しみという戸田卓によってこの地に創業。昭和53年2代目戸田寛が全国の郊外型書店のはしりとして、キャッチフレーズ「田んぼの中に店をつくりました」のもと「静岡SBS通り店」をオープンさせた。その後、現在は日本国内に58店舗展開する。清水本店は、無料貸し出しの戸田画廊や、親切な店であること、豊富な品揃えを心がけ、他支店と共に、「活字文化をなくさないために」挑戦を続けている。



## 季刊清水

1975年に清水市のオピニオン誌にしたいとの思いで戸田書店2代目の戸田寛氏が創刊。以後様々な人のネットワークで清水を記録してきたが1999年休刊。戸田寛氏が亡くなったあと、その遺志をついで娘の鍋倉伸子さん、元社員の興津修司さん、そして鍋倉さんの友人の松下光恵さん、豊田久留巳さんから編集委員会の手によって2003年に復刊する。「黄金期の清水を記録し、その時代を生きた大人の息吹をつたえたい」「今聞いておかなければならぬことを活字で残したい」「そこに暮らしてきた人の思いを表現したい」という。また「歴史を大事にしないとまちの方向が間違った方向に進むのではないかと心配する。地域の基層となる郷土史を扱い、活字中心の雑誌づくりのころごしは、創刊以来変わらない。企画から本になるまで約半年。それぞれのスタッフが本職がある中で、時間を取るのが大変で、季刊とはいっても1年に1冊出版するのがやっとという。大切にしたい一冊である。」



## 10・さつき通り

清水の市街地を南北に通る大通りは、昔は電車どおりと呼ばれ路面電車が走っていた。昭和49年(1974)の七夕豪雨によって被害を受け、翌年50年に廃線となってしまった。陸橋の工事の際に電車が通っていたときの石組みがアスファルトの下から出てきていた。

現在のさつき通りは、市民活動による寄付や企業からの寄贈による数多くの彫刻で彩られている。



### まちなかの妖精たち

水と彫刻のあるまちを創ると望まれた彫刻たち。さつき通りの中央に一作品づつあって、見つめると日常を一瞬忘れ去ってしまう。森の中で出会った妖精のようだ。



## 11・鈴与株式会社

享和元年(1801)、徳川家康より特許を与えられた廻船問屋より問屋株を譲り受け廻船問屋・播磨屋与平を創業。以来回漕業(船で物資を運ぶ)を中心に様々な関連事業を行い、清水港の発展に数多くの偉業を残した。

また「地域とともに生きる」という考え方をベースに、地域貢献として、教育・文化・福祉など様々な分野の支援をしているという。教育

支援として静岡理科大学開学への支援、文化支援としてフェルケル博物館開館の支援、福祉支援として知的障害者更生施設「宍原荘」設立の支援などである。社員一人ひとりも大正時代より続く経営理念「共生(ともいき)」の考え方のもと、社員でグループを作り様々な社会貢献活動に取り組んでいるという。

## 12・エスパルス ドリームプラザ

清水港開港100周年となる平成11年(1999年)にオープンした複合商業施設。「清水すしミュージアム/清水すし横丁」「ちびまる子ちゃんランド」「清水サッカーミュージアム」のほか、マルチ・コンプレックスシアター「MOVIX清水」など个性的な施設と、「清水みなと市場」などの新鮮な海産物や、レストランもあり、子どもからお年寄りまで1日楽しむことができる施設。「地元清水エスパルスを盛り上げ、エスパルス球団の夢を羽ばたかせる応援拠点として、多くの方に利用していただきたい」という気持ちをこめてエスパルスドリームプラザと命名したという。清水港に面して建ており、デッキでくつろいだり、周辺公園でお弁当を食べるのもよさそうだ。夏の「清水みなと祭り」では会場花火を見る絶好のポイントとなるらしい。

という気持ちをこめてエスパルスドリームプラザと命名したという。清水港に面して建ており、デッキでくつろいだり、周辺公園でお弁当を食べるのもよさそうだ。夏の「清水みなと祭り」では会場花火を見る絶好のポイントとなるらしい。



## 14・エスパルスドリームフェリー

伊豆市土肥まで65分で行く駿河湾フェリーの運航や、湾内クルーズ、生活の足としての通船の運航、河津桜など四季折々の伊豆の魅力を引き出すツアーなどを行っている。創業は明治41年(1908)地元の船長や機関長など4名が「清水港巡航船」として共同で行ったことが始まり。船旅のよいところは、移動時間を寝ころがったり、走り回ったりなど自由に楽しむことができるところだ。新日本三景である三保の松原や、清水港、富士山や清水の街並みを海から眺めることによって、街の新たな魅力を発見することができるのでは。



## 13・エフェムしみず マリンパル76.3MHz

静岡県内2番目のコミュニティFM放送局として、平成8年に開局。地域密着で地元の情報を発信し、市民の生の声を届けている。また、清水次郎長についてより知ってもらおうと、毎週日曜日の朝に浪曲「清水次郎長伝」を放送している。

阪神淡路大震災のときは情報源としてラジオが非常に役に立ったという。普段から災害に対する情報を生活情報として地元の人に伝え、非常時には放送を通じて市民を守る役割を担っている。地域のための放送局を目指し、今日もパーソナリティーの石井さんは商店街を走り街の情報を収集していた。

## 15・水上交番

清水で唯一の「水上交番」。近くにはパトロールカーならぬパトロール船が停泊してあった。以前は水上パトロールのみの業務であったが、現在は周辺地域の陸上のパトロールも行っている。「もちろん徒歩で」とのことである。



## 16・魚馬

創業130年といわれる魚屋の老舗、「魚馬」。この店の自慢は「刺身」と「干物」。刺身はなんといってもマグロがおすすめ。干物は、塩干しが定番といえるところだが、「醤油干し」というのは清水独特のもので、イワシ、秋刀魚、太刀、鯖などなど豊富な種類がある。清水では定番の「いるかのタレ」も絶品。

4代目になるご主人山本真さんは、清水商店街連盟副会長、港町商店街副理事長というまた別の顔を持つ。5~6年前からは「趣味みたいなもの」として、商店街を盛り上げるイベントを多々企画、開催し、大成功をおさめてきた。現在も商店街を「生(活)かす」ためのホットな構想をいろいろと温めている。「イベントは確かに一過性のものなんだけど、続けることでいろいろな意義を感じてくるんだよね」「何でも「点」ではだめ。周辺と協力して「面」になっていかないと」と商店街とイベントにかける思いを熱く語る。

港町清水でひとさき輝く存在である魚屋。いわばこのまちの「個性」でもある魚屋の看板を代々守るご主人が、こんなにも地元へ愛情と情熱を注いでいるというのはなんとも頼もしいことだと感じた。



## 17・清水港湾博物館 フェルケール博物館

“フェルケール”とはドイツ語で「交通・流通」を意味する言葉である。清水港にゆかりのある船の模型をはじめ、昔の港仕事で使用されていた道具の展示、輸出用茶ラベル等、物珍しいものが数多く展示されている。また、「参加体験型」の博物館として、展示物の中にはただ目で見るだけでなく、実際に手で触れられる展示物も多い。併設の缶詰記念館は、初めてまぐろ油漬缶詰を製造・輸出した清水食品株式会社の創立当時の本社社屋を移転、補修したもの。展示されている昔の缶詰ラベルは、そのレトロ感が新鮮で、今見ると何だかかわいい。

モダンで垢抜けたデザインは藤江通昌氏によるもの。建築物自体としての評価も高く、平成3年には静岡県年景観賞・静岡新聞社賞を受賞した。袋物の荷役作業に使用される手鉤をモチーフにしたランプ等、デザインのあちこちに「港」を発見することができる。

2階ギャラリーで開催される企画展は、館長自らの鋭い視点と豊かなアイデアが光るものばかり。今の子どもたちが失いつつある日常における「なぜ」「不思議」を感じてもらえるような工夫が随所に見受けられる。館の入口に置かれているお手製の学年別ワークシートもそのひとつだろう。ここにくれば、今まで知らなかった港のおもしろさを見ることができただけでなく、プラスアルファのいろいろなことを再発見できること間違いなしだ。



### この橋を渡ったら

この橋を渡ったら、きっと…。普段何気なく渡っている橋、けれど、たまにはこんな気持ちになることがあるでしょう。



それぞれの橋ばなし  
巴川にはたくさんさんの橋がかけてられている。稚児橋より下流の橋をご紹介します。

### 稚児橋

現在の橋は平成13年8月完成。橋にはかわいい河童たちの像があり、思い思いのポーズをとっている。どうして稚児橋で河童なのかというと、由来が書かれたプレートがある。だいたいこんなことらしい…。慶長12年に橋が架けられ、江尻の宿にちなんで江尻橋と命名されることになった。いざ渡り初めの時、川の中から一人の童子が現れ、橋脚に登り、橋を渡って入江方面へ消え去った。このことから稚児橋と名づけられた。また、その童子は巴川に住む河童だと語り継がれた。そのため稚児橋と言う名で河童がシンボル像である。



### 柳橋

名前は右岸の柳並木よりつけられた。現在は涼しげな柳のデザイン画が橋を彩る。

### 大正橋

大正元年に工事が着工されたためこの名前になったようだ。

### 千歳橋

大正6年が初めての架設でももちろん木造であった。でも名前はなかった。老朽化して揺れが激しくなると名無しも相まって「ユレイ橋」なんて呼ばれたそうだ。

### 万世橋

“よろずよばし”と読むそうだ。架設建設に尽力された望月万太郎清水町長の一字を頂いたもの。

### 八千代橋

市民による一般公募で名づけられた。西欧風の敷石張り雰囲気のある側灯柱が素敵だ。

### 富士見橋

一番初めの架設は明治21年で総工費が7,000円の木橋。第4番目は昭和36年当時、何千万円とかかる鉄筋コンクリート橋なので、立派な橋ができるだろうと市民は大変喜んだそうだ。

### 港橋

初代は明治12年に波止場のある向島と清水町を繋ぐために架けられた。これは清水港が近代的な外海港として築港されたからだ。それから20年後に港は外国へ開放された。明治40年代に「日本一の茶の港」として歩み始めると巴川畔は時代に取り残されたかのように様変わりした。漁港としても全国屈指の良港であり、港橋のたもとには魚市場が設けられていたがそれも「波止場」側に移転してしまった。

### 羽衣橋

明治43年に巴川河口付近と三保を結ぶ架橋として完成した当時は木造で長518メートル、幅3.6メートルであった。現在は国道150号が巴川に架かる橋となっている。羽衣の天女がお迎えしてくれる。

## 18・株式会社 信濃屋

入港した外航船に食料品や生活雑貨を提供する「船食」という、港の街ならではの職業を営む。代表取締役の所恒晴さんは4代目。各国の人と取引があり、宗教によっては食の制限などで苦労することもあるが、異文化交流を楽しんでいる。自前のボートで直接貨物船へ荷物を積んで届けることもあるという。

「船の上では一度沖に出てしまうと自由に好きなものを飲み食い出来ないから」と船上での食の大切さを教えてくれた。ちょうど海王丸に荷を積んだ後のほっとした時であった。

## 19・魚伴

エスパルス通りを歩いていると、いやが上にも目につく看板がある。サッカーボールに腰掛ける「考える人」、そしてその頭上に輝く「うーん魚は魚伴だ!!」というでっかいキャッチコピー。4代目ご主人の天野さんによると、この看板はエスパルス通りの完成に合わせて作った“静岡と清水の融合”をイメージしたものだという。一見して充分奇抜なデザインだが、この通りの雰囲気の中に自然と馴染み、妙な説得力がある。

取材当日、ちょうどお店に居合わせた常連客のご夫婦に魚伴さんの魅力について何うと、「魚の種類が豊富で、日替わりメニューのよう。店にきてから今日食べるものを決められる」「この店にはその日だけの旬がそろっている」など賞賛の嵐。なかでも常連さんの一押しは“アジ”。



ご主人による塩加減が実に程よく、また今では希少となった清水産のアジも買えるのだそう。お客さんとご主人たちのやり取りを見聞きする中で、こんな風に五感を使った買物ができるのが、なんといっても小売店の魅力なのだ改めて気付かされた。

「高級なものはあんまり取扱っていないけど、前掛けしたままでも買いに来られるような、気取ってない感じがこの辺のいいところなんじゃないかな? 多少損をしてもいいから、とにかくいろいろなものを並べたい」というご主人の言葉には魚屋としての誇りと自信がこもっていた。



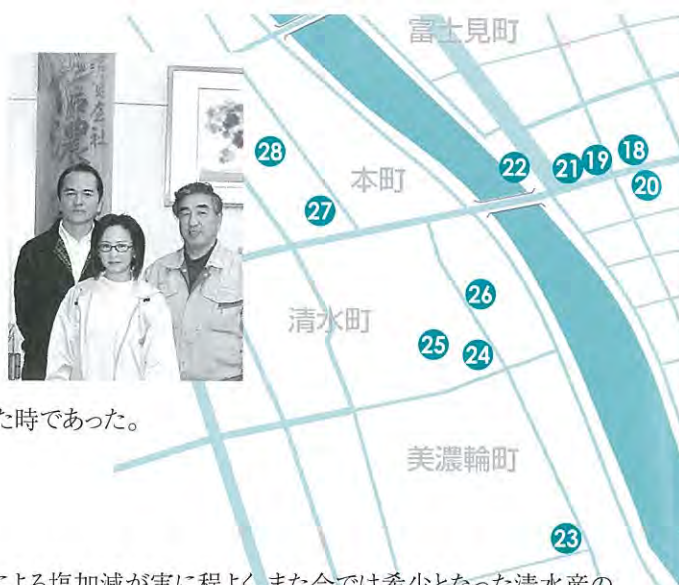
## 20・サンライス

清水の洋食屋第一号店、サンライス。3代目となる今のご主人遠藤真佐明さんのお爺さんが、強い情熱をもって創業してから80年余が経つ。当時は、“サンライス”のような横文字の店名は他になく、かなりハイカラな名前だったようだ。今もお店の中には、港町独特の異国情緒な雰囲気がさりげなく漂っている気がする。

サンライスの名物といえば、やっぱりカレー。秘伝のルウは、創業当時から代々変わらず受け継がれている。その元祖の味を食べたい方は、そのルウが使用されている「スペシャルカレー」をぜひご注文あれ。また、テレビ企画から誕生したという新作「清水みなどカレー」は、魚のブイオンを使用した今までになかったまったく新しいカレーで、本物はこの店でしか味わえない。

お店のメニューには創業当時から守り続けてきた伝統と、それぞれの代のご主人がそれぞれのアイデアにより生み出してきたオリジナルメニューがすべて盛り込まれている。その時代のニーズに合わせてご主人が厳選した逸品が顔を揃えている。

その昔、ステーキなどは航海士の中でも上等位の人しか口にできなかったが、カレーやハヤシライス是一般の方でも気軽に食べることができた。多くの人に食され、愛されてきたからこそ、サンライスは今なお多くのファンを持ち続けているのだろう。“サンライスといえば、カレー”には理由がある。



ご主人による塩加減が実に程よく、また今では希少となった清水産のアジも買えるのだそう。お客さんとご主人たちのやり取りを見聞きする中で、こんな風に五感を使った買物ができるのが、なんといっても小売店の魅力なのだ改めて気付かされた。

「高級なものはあんまり取扱っていないけど、前掛けしたままでも買いに来られるような、気取ってない感じがこの辺のいいところなんじゃないかな? 多少損をしてもいいから、とにかくいろいろなものを並べたい」というご主人の言葉には魚屋としての誇りと自信がこもっていた。

## 21・清水港船宿記念館 末廣

明治19年(1886年)、次郎長は晩年の住居を港の中心部波止場に定め、二階建ての船宿「末廣」を開業した。当時の波止場では唯一の船宿で、海軍士官の候補生たちは清水港に来ると、次郎長の武勇伝を聞くためによくここを訪れたそうだ…。

明治26年6月、74歳で次郎長がこの世を去った後、「末廣」は売却され、昭和13年には鶴舞町に移築されたが、平成11年、その鶴舞町で見つかった部材を調査した結果、なんと当時の「末廣」のものであることが判明。平成13年、その創業当時の部材を生かして、「清水港船宿記念館 末廣」が復元された。

次郎長といえば、アウトローな印象が先行しがちだが、晩年の次郎長は清水港の振興や富士山麓の開墾事業等、地元静岡のために尽力したことでも有名。この記念館の中には、その時代の次郎長を語り継ぐ資料が中心に展示されている。



## 22・甲州廻米置場跡の碑

港橋のたもとに、ひっそりと、少々風変わりな石製の立派な碑がたっている。碑文によれば、この周辺は、清水港開港よりずっと昔、徳川時代に甲州から江戸へ送る年貢米を千石船に積み込んだ場所とのこと。寛保元年(1741年)から明治5年(1872年)までの約130年もの間その機能を果たしていたそう。この土地は明治維新後、その名のごとく山梨県の用地となり、明治6年にいったんは払い下げとなったがその後取り消され、今日も依然として山梨県の所有地なのだそう。



## 25・太平洋を往復した梵鐘(ほんしょう)

永禄二年(1559年)開山の清水区清水町にある圓教山妙慶寺の梵鐘は、数奇な運命をたどる。昭和15年(1940年)第二次大戦において、全国の寺院とともに、国へ奉納され、鐘楼も取り壊された。梵鐘は戦利品として、アメリカ合衆国カンザス州トピカ市へ運ばれ保管された。昭和63年(1988年)トピカ市在住のミニシボ女史の提唱により日本へ返されることとなり、平成元年(1989年)無事帰山した。太平洋を往復した梵鐘に「合掌」。



## 27・石ぐらギャラリー 北新

明治10年に塩問屋 北村新兵衛が商品蔵として建立した石蔵が、ギャラリーとして生まれ変わった。代表の北村さんは、老朽化した建物を壊そうとしたが、太く立派な梁を見た大工さんに県内にそうあるものではなく残そうと説得されたという。「そう言われた時本当はうれしかった。古いものを残すことは大変

なことで、皆さんの協力も必要。だが、完成後予想以上に蔵がすばらしい出会いをあたえてくれた」と古いものを残すことに悩んでいる人に伝えたいという。ギャラリーではコンサートや展示会などを行った。来場者からは、「古い石蔵の空間がかもしだす雰囲気に大変癒される」といわれる。ギャラリーの改装が縁で、明治8年に交わされた古文書が届けられた。広島県竹原市より興津の「若宮丸」によって五千百俵の塩が運ばれたという証文である。「これも蔵がくれた新たな縁。130年ぶりに広島の子孫をたずねてみます」とのことであった。



## 23・大黒屋酒店

店先に何やら木の実や果実の詰まった瓶が並んでいる。奥へ入ると壁一面が果実酒。残念ながら、これらは売り物ではないようだ。材料はびわの実、きんかん、朝鮮人参まで、様々。果実酒は薬として利用した時代もあったとのこと。昔は酒屋の奥にカウンターがあり、そこで酒を立ち飲みできたという。その当時は当たり前スタイルだったようだ。酒屋が一杯飲み屋のようなものだった。地域の社交場でもあったのだろう。



## 24・増田屋酒店

大正12年創業。先代が清水区宮加三の醸造家に勤めたのち、独立して店を構えた。創業当時は酒の量り売りもしていたようで、屋号の入った量り売り用の徳利が納屋からたくさん出てきたとのこと。次郎長生家に近く、清水のお酒を求める人が多かったことから、オリジナル清酒「清水」を販売。キリッとした辛口の酒だ。



## 26・魚秀

店先に大きく「いるかのタレ」ありますと貼り紙。うなぎのたれならぬ「いるかのタレ」とは何だろう? ご主人の飯沼 勲さんに尋ねると、見せてくれたのは黒っぽい長方形の切り身。思わず、「これ何ですか?」と再び尋ねてしまった。これがあるかのタレで、こっちゃんが生肉、と奥から赤い肉の塊を出して見せてくれた。それを塩漬けにして干すと、色が黒っぽくなる。食べ方は魚を焼くように焼くだけ。好みで、マヨネーズをかけたり、レモン汁を絞ったりしてもいいそうだ。清水の名物、まだ未体験の方は一度試してみても? 水族館のイルカショーの見方が変わるかも。



## 28・ぶんかさろんしみず

「私たちの大切な財産である文化を誇りとして次の世代に伝えたい」と会長の小島工さんは言う。「残したい郷土の歴史と文化」として、清水本町にのこる石蔵や、そこに残る古文書など貴重な資料を活用しようと勉強会やイベントを行っている。普段は会員の石野さん宅に残る石蔵で古文書の解説など勉強会を行っている。また「清水の匠シリーズ」と銘打ち、地域の伝統工芸作家を紹介する展覧会を、石ぐらギャラリー北新で年1回開催している。



くらしのな

# 特集 清水港とお茶

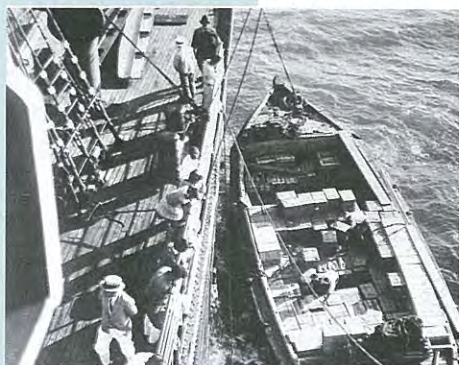
平成18年に、清水港お茶輸出百周年を迎える。清水港の開港と初期の繁栄を支えたのが「お茶」であった。清水港の歴史とともに見てみる。



▲ 当時の清水港

## 昔

鎌倉時代の文書に、伊勢国(三重県)と幕府のある鎌倉とをつなぐ中継港として清水港がでてくる。また現在静岡市埋蔵文化財センターに保存される全長5.15メートルの巨大な丸木舟は800年前の鎌倉時代につくられた川舟という。また徳川幕府の時代、大坂夏の陣の功績により、清水の42軒に諸問屋(売買・回漕)特権を与えた。特権は営業の独占、海難事務処理権、海上警察権、幕府御用を務める「御船御用」などである。この頃、廻船問屋が集中していたのが現在の清水区本町であり、現在でもその名残を残す石蔵を持つ家がいくつか見られる。



明治維新以降、外国製の大型蒸気船が訪れると、こ

れからは外洋につながる港が必要と、廻船問屋の経営者たちを中心に、現在の日の出埠頭中心部(マリビル周辺付近)に、外海に面した清水港が築港された。この清水港より横浜に送られた主要品がお茶である。当時お茶は生糸とともに重要品目であった。直接外国と交易のできる開港場は近隣では横浜であったため、横浜を経由し外国へ送られていた。

東海道線の開通によって、運賃は高いが圧倒的に早い鉄道で横浜へと荷が運ばれるようになると、清水港の移出高は一時的ではあったにしろ三分の一にまで落ちることとなった。

しかし高い輸送費を払って横浜経由で輸出するより、直接清水港より輸出したほうが安価にできるという請願を重ねた結果、明治32年(1899)開港場に指定された。

開港しても、すぐにお茶が直接輸出できるわけではなかった。お茶を輸出するには、茶葉に更に火入れをした「再製」をしなければ、茶葉の色が変色したり、カビが生えたりしてしまうので、清水港から直接輸出するには再製茶工場を地元へ誘致する必要

があった。また、輸出するためには最低300トンは常時確保しなければならないなど厳しい条件があった。しかし当時、静岡県茶業組合連合会の役員であった海野孝三郎らの精力的な動きによって、最初に駿府城内、その後下清水に、そして静岡の安西に再製工場が設立された。安西には県内のみでなく多くの再製工場が設立されることとなる。これに製茶機械の技術革新も加わり、輸出用のお茶を大量に確保することができるようになった。

そして明治39年(1906)5月13日、ついに日本郵船所有の「神奈川丸」がお茶直輸出の第一便として清水港に入港したのである。



▲ 神奈川丸 復元画: 上田毅八郎氏

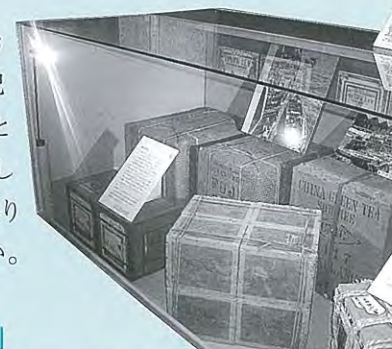
直輸出開始後の清水の発展はめざましく、お茶の輸出は予期した以上の数量となり、早くも明治43年(1910)には日本一のお茶輸出港になった。直輸出開始からわずか5年目であった。直輸出によって静岡はお茶の「集散地」として、清水は「輸出港」としてそれぞれ日本一の役割を担うようになった。



▲ 輸出用茶箱ラベル

## 今

現在、清水港お茶輸出百周年を記念して市民団体と行政とが様々なイベントを企画している。そんなお茶の清水を盛り上げようとする団体を紹介したい。



### 「清水みんなのお茶を創る会」

平成13年に清水お茶のまちづくり実行委員会として発足。「清水をお茶のまちにしたい」と、清水の茶専門店や生産者を中心に設立。「お茶に関わる交流や活動が網目のようにつながり、暮らしの中で地元のお茶がさりげなく飲める」このような風土づくりを目指している。15人で運営している。

自分たちでまずはどんなお茶を売っているのだろうか調べ、様々なお茶を試している中で、「静7132」というお茶に注目した。

農業試験場では、お茶以外の香りがするとして外されたのだろうか。天然で桜葉の風味がするという、お茶の世界では欠点と見られたその特徴をPRすることによって新しい清水のお茶として売り出そうとしている。その名も「まちこ」。「まちこ」という商品名は、まだ木に名前がなかったときに、お茶つまさんが「名前がないとかわいそう」といって私の名前をあげるといってつけたとのこと。日があたりすぎても育たない、いじめた方がおいしいお茶



になる。日陰美人の「まちこ」といったところか。

新しい清水の「顔」となれるか「まちこ」。名前をくれた「まちこ」さんにも是非お会いしてみたい。



### 【コラム】清水港の人々

江戸が東京となり明治元年から翌年にかけて徳川家臣とその家族たち約2万人が、大量に清水港へやってきた。清水港の地元では難民同様になってきた彼らを「お泊りさん」と呼んで温かく迎え入れ、炊き出しや宿泊所の手配に当たったという。

また、大正12年に発生した関東大震災で、東京、横浜は一瞬にして焦土となった。陸路が寸断されてしまったため、港に避難民が続々運ばれてきたという。その数は8万9千人余に達した。そこでも清水港の人たちは、温かく迎え復旧に尽力したという。

清水のあたたかい土地柄がうかがえるエピソードである。

写真資料提供: フェルケール博物館



## ワールドプロセッサ展

静岡科学館 む・くる

子どもに伝えたい地球108の顔  
インゴ・ギュンター

21世紀の地球がかかえる諸問題を108のワールドプロセッサで表現した作品を展示します。

私たちが美しく無言のまま語りかけてくる108の地球儀の空間を歩くことで、さまざまな要素が複雑に影響し合い流動している状態こそが「世界」であることに、私たちはあらためて気づきます。

108の地球は、これまで発表されてきた作品テーマに加え、世界の子どもたちの問題、そして未来を支える子どもたちへのメッセージも込め、インゴ・ギュンター氏、P3 art and environment、九州大学ユーザーサイエンス機構 子どもプロジェクトがディスカッション・共同研究を重ね、制作が進められました。今回は、その108の地球で構成する展覧会として九州大学に続き全国各地で2番目の開催です。

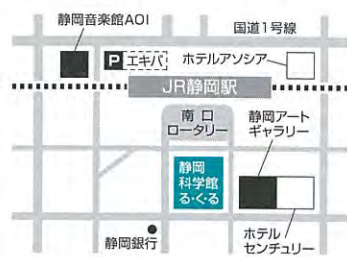
未来をになう子どもたちと、  
子どもたちを支えるすべての大人へ

108のワールドプロセッサは、子どもたちの未来が閉塞感につつまれたこの時代に、子どもたちと大人がともに世界の歪みに気づき、少しずつ修正していける何かからのきっかけになると信じています。

2006. 3. 25 sat → 5. 14 sun  
9:30 — 17:00

会場：静岡科学館 む・くる 9F 企画展示室

静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ 8F~10F  
Tel: 054-284-6960 Fax: 054-284-6988  
入場料：無料 (15歳以上は科学館入館料500円が必要です)  
休館日：月曜日 ※臨時休館日・臨時開館日あり



- テレビ所有 TV Ownership
- 真水 Fresh Water
- 海床 Ocean Floor
- 内陸国 Landlocked Nations
- 平均寿命 Life Expectancy
- 難民の流れ Refugee Currents
- 日本の経済 Japanese Economic Continent
- オゾンホール Ozone Hole
- CO2の螺旋 CO2 Spiral
- 国際データ International Data
- 夜 Night
- 人口の泡 Population Bubble
- ウィットゲンシュタイン Wittgenstein
- チェルノブイリの雲 Chernobyl Cloud
- ランダムな基本要素 Random Basics
- 世界のエネルギー消費の割合 Percentage Of World Energy Consumption
- 雨粒の空 Fall From Leftovers
- 耕作地 Arable Land
- 主要人口集中地/人口分布 Major Population Centers/Population Distribution
- UN 平和維持任務 UN Peacekeeping Missions
- 地球の80 Languages Earth In 80 Languages
- 地盤 Land Mines
- 枯渇する漁場 Depleted Fishing Grounds
- 投影法における100の問題 100 Projection Problems
- 砂漠化 Desertification
- 人々の力 People Power
- 海洋汚染 Ocean Upwellings
- 酸性雨 Acid Rain
- シャーマニズムと伝統的信仰と原始宗教 Shamanism and Traditional Beliefs, Primitive Religions
- アラブ連盟 Arab League
- 海洋と大陸 Oceans & Continents
- 環状の氷 Ring of Ice
- 南極と北極圏 Arctic & Antarctic Circle
- 日本だけ Japan Only
- 原子力を持つ国と持たない国 Nuclear Have's and Have-not's
- 名前だけ Just Names
- 政治的境界 Political Borders
- 熱帯の地球 Tropics Globe
- 材料援助 Foreign Aid
- 拡張された排他的経済水域 Maritime Exclusive Extended Economic Zones
- 主要河川 Major Rivers
- 湿地 Wetlands
- 核爆発 Nuclear Explosions
- 光ファイバー網 Fiberoptic Network
- 油田、石炭露出とガス埋蔵地 Oil Fields, Coal and Gas Deposits
- 海洋汚染 Ocean Pollution
- 紛争(World War II) 平和な国 Peaceful Countries
- 飛行機事故 Airplane Disasters
- 各地でのエイズの影響 AIDS Impact On Regions
- 難民(共和国) ネットワーク Refugee (Republic) Network
- 企業 vs. 国境 Company vs. Country
- 森林失火 Forest Fires
- ムービーランド Movie Land
- 労働者の移住 Labor Migration
- 島国 Island Nations
- 平均年齢 Age
- 人口減少 Population Degradation
- 太陽系 Solar System
- 生態系 Eco Pressure
- 隕石の影響 Asteroid Impacts
- 分裂統合される国々 United & Divided States
- 自給自足の国々 Cornish Communities
- 燃料消費 Fuel Consumption
- 自動車会社 vs. 国境 Auto Corporations vs. Countries
- 文通 Car Jam
- インターネットユーザー Internet Users
- 携帯(電話) 社会 Mobile (Phone) Society
- 河川 River
- 分水界 Watersheds
- 耕作地の人口 Peatin Populations
- 京都議定書 Kyoto Protocol
- 西洋と中国の境界 The Rest of the World
- 文明 Civilizations
- 飛行機 3 Hour US Air Force Range
- 基地 U.S. Navy Bases
- 自由 Freedom of the World
- 出生率 Birth Rates
- 衛星 Satellites
- 和洋折衷 U.N. Peace
- 民主主義 Democracy
- 西側の介入 Western Intervention
- ロケット打ち上げ基地 Rocket Launch Sites
- 多民族国家 Multinational States
- 多言語国家 Multilingual States
- 国際組織 International Organizations
- 食料の国々 Food Intervention
- 水産物の輸送 U.S. Food Aid
- 農業における生物学的多様性 Agricultural Biodiversity
- タバコ Tobacco Cloud
- 多国籍企業 Multinational States
- 全人口に対する国際移住者の割合 International Migrants as a Proportion of Total Population
- 妊産婦死亡率 Maternal Mortality Ratio
- 孤児 Stunted Children
- 盲文字 Brail
- 学年 School Years
- 時差 Time Zone System
- 肥満 Obesity
- 貧困線以下の人口 Population Below Poverty Line
- ISOコード ISO Codes
- 包摂的経済発展と持続的発展ネットワーク Nuclear Comprehensive Test Ban Treaty Monitoring Network
- 女性議院の割合 First Female Parliamentarian
- 七大陸架氷床 The Seven Samitas
- 海抜より低い地域 Below Sea Level

### インゴ・ギュンター プロフィール

1957年ドイツ生まれ。現在ニューヨーク在住。アーティスト、ジャーナリストの肩書きを持ち、メディアアートの革新者として多大な影響力を持つ。ジャーナリズムとアートとを結び、国家、テクノロジー、個人、メディアを取り巻く諸問題を可視化する。世界経済フォーラムにも招かれ、国際外交を研究するなど、グローバルな考えの思考と行動力が特徴。横浜トリエンナーレ2005参加アーティスト。2006年度より東京芸術大学客員教授。

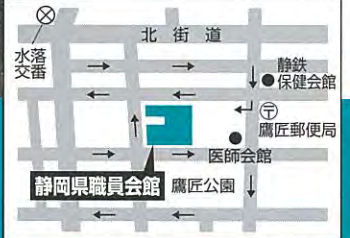


Ingo Günther  
Worldprocessor



豊かな明日を築く、  
皆様のネットワーク  
ステーション。

静岡県総合研修所もくせい会館 〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1  
静岡県職員会館 TEL.054-245-1595  
FAX.054-245-1669



YURARA ぬらら

ご案内図

250台

●ホームページアドレス  
yurarashizuoka.com

〒420-0905 静岡市葵区南沼1379-1 TEL:054-263-3456

区分	大人	子供 (3歳以上 小学生まで)
全日使用券	1,200円	600円
夜間使用券(18時以降)	600円	300円
回数券(6回分)	6,000円	3,000円
団体使用券(15人以上)	800円	400円
3月使用券	9,000円	4,500円
年間使用券	25,000円	12,500円

「ゆらら」は、隣接の清掃工場の余熱を利用した温浴施設です。エネルギー循環型の

## From Editor

◆盛りだくさんの内容となりました。とても紹介し切れなかったところがたくさんありますので、ぜひ直接歩いてみてください。

◆たくさんの方にご協力いただきました。本当にありがとうございます。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材したいと思います。ご意見・ご感想・情報をドジンドジお寄せください。

### 参考・文献

- 『清水港開港100年史』  
発行：静岡県  
編集：清水港開港100年史編集室
- 『鈴与200年小史』～港に生き、時代に挑み  
発行：鈴与株式会社  
編集：鈴与200年史編集委員会
- 情報マガジン「茶道楽」17号  
茶文化振興協会
- 写真提供(あの日の時)  
石野友也氏

### 静岡文化情報「街かど」第27号

- 発行(年2回)  
平成18年3月
- 編集・発行  
(財)静岡市文化振興財団  
〒420-0031  
静岡市葵区呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階  
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
- 印刷  
株式会社パピア中央  
静岡市駿河区小鹿一丁目62番18号



何かいいこと、きっとある。



# エスパルドリームプラザ

より速く、楽しく、快適に、  
美しき駿河湾クルージング



駿河湾  
フェリー

清水港  $\leftarrow$  65分  $\rightarrow$  土肥港

株式会社エスパルドリームフェリー



## 鈴与株式会社

〒424-8703  
静岡県静岡市清水区入船町11-1  
TEL. (0543) 54-3054